



第26回

河川生態学術研究発表会

令和6年11月21日(木)

10:30~17:45

ハイブリッド形式にて開催予定

- ・会場【東京証券会館 8階】：定員300名
- ・WEB：定員500名

CPD認定

5.5単位(会場)

4.5単位(WEB)

参加
無料

※土木学会以外の団体に提出する場合の方法等は提出先団体に事前にご確認ください。他団体が運営するCPD制度に関する内容については回答いたし兼ねます

※Zoom参加の場合、ポスターセッションは参加できません。

河川生態学術研究会は、生態学と河川工学の研究者が共同し、河川における生態系の解明とその上に立った河川管理について研究、議論するとともに、次世代を担う研究者を育成することを目的としています。

現在、個別の河川を研究フィールドとした5つの河川別研究グループ(富士川、長良川、千曲川・信濃川、筑後川、狩野川)、若手を主体とした横断的なテーマで研究を進める2つの総合研究グループ(汽水域チーム、かく乱チーム)が活動しています。

この度、応用生態工学会との共催により、5つの河川別研究グループと総合研究グループ(汽水域チーム)が一同に会して研究成果を発表し、河川生態の最新の知見を共有するとともに、幅広い意見交換を行う場として研究発表会を開催いたします。

この研究発表会が、河川生態の研究およびその活用の充実、発展の機会となるよう、研究者、現場技術者、NPOなど、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。



●東京メトロ東西線・日比谷線
茅場町駅8番出口直結

(敬称略)

プログラム

10:30	開会挨拶	河川生態学術研究会委員会 委員長 中村 太士
10:40	研究グループの研究発表(口頭発表)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表《富士川研究G 代表 大槻 順朗》 ・研究発表《長良川研究G 代表 萱場 祐一》 ・研究発表《千曲川・信濃川研究G 代表 箱山 洋》 ・研究発表《筑後川研究G 代表 鬼倉 徳雄》
12:00~13:00	昼食	
13:00	研究グループの研究発表(口頭発表)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表《狩野川研究G 代表 塚越 哲》 ・研究発表《総合研究G 汽水域チーム 代表 乾隆帝》
13:40	ポスターセッション(裏面参照)	
14:50	総合討議	コーディネーター：筑後川研究G 代表 鬼倉 徳雄 パネリスト：筑後川研究グループ
15:25	話題セッション：河川環境目標設定の実践と課題、そして、展望	<p><コーディネーター> 萱場 祐一 (名古屋協業大学教授)</p> <p><パネリスト> 中村 太士 (北海道大学名誉教授)、島谷 幸宏 (熊本県立大学特別教授)、戸田 祐嗣 (名古屋大学大学院教授)、赤坂 宗光 (東京農工大学大学院教授)、皆川 朋子 (熊本大学教授)</p>
17:30	閉会挨拶	応用生態工学会 会長 占部 城太郎 国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課

主催

河川生態学術研究会
(公財)リバーフロント研究所

共催

応用生態工学会

研究グループの研究発表・話題セッション

(敬称略)

10:40~12:00/13:00~13:40 研究グループの研究発表

富士川研究グループ / 代表 大槻 順朗 ・扇状地河川と氾濫原水域における水温変動特性と魚類の季節別生息分布特性	10:40~11:00 大槻 順朗
長良川研究グループ / 代表 萱場 祐一 ・流域治水の進展は生物多様性に寄与するのか？ - 長良川と津保川流域を対象として -	11:00~11:20 萱場 祐一
千曲川・信濃川研究グループ / 代表 箱山 洋 ・ On the importance of habitat continuity for riverine ecosystems and related restoration measures	11:20~11:40 箱山 洋
筑後川研究グループ / 代表 鬼倉 徳雄 ・平成29年7月九州北部豪雨からの河川生態系の回復および災害復旧の影響：全体概要	11:40~12:00 鬼倉 徳雄
狩野川研究グループ / 代表 塚越 哲 ・流況変化に対する河川-海洋沿岸生態系の応答 - 狩野川水系における解明と生態系保全策 -	13:00~13:20 塚越 哲・加藤 憲二
総合研究グループ(汽水域チーム) / 代表 乾 隆帝 ・感潮河川潮間帯における生物の面的モニタリングのための技術革新研究	13:20~13:40 乾 隆帝

13:40~14:40 ポスターセッション

長良川研究グループ / 代表 萱場 祐一 ・長良川研究グループの研究概要 ・流域治水の整備に伴うハビタット多様性変化の推定 ・長良川における水生植物の分布と生育環境	萱場祐一 溝口裕太 片桐浩司
千曲川・信濃川研究グループ / 代表 箱山 洋 ・ On the importance of habitat continuity for riverine ecosystems and related restoration measures ・ Effects of water flow velocity on metabolic functionality of freshwater epilithic biofilms: a field and laboratory study ・ River fragmentation at the local scale: effects on biodiversity ・横断測量データと航空写真からみた千曲川中流域における河道変遷	箱山洋 Alessandra Cera et al. Leanne Faulks et al. 井土貴斗・吉村芽唯・豊田政史
筑後川研究グループ / 代表 鬼倉 徳雄 ・平成29年7月九州北部豪雨からの河川生態系の回復および災害復旧の影響：全体概要 ・土石流後の溪流生態系の変化 ・筑後川における環境DNA定量メタバーコーディングを用いた九州北部豪雨後の魚類群集モニタリング~2017年から2023年にかけての変遷~ ・災害後のタカハヤの遺伝的多様性の回復プロセス ・大災害後の生物多様性の回復ソースとなりうる河川環境 ・中小河川の魚類に壊滅的影響をもたらした平成29年九州北部豪雨の外力とレジリエンス要因の分析 ・平成29年九州北部豪雨後の河川改修後の河道と魚類相及びこれを踏まえた今後の河川整備のあり方	鬼倉徳雄 一柳英隆・佐藤辰郎・伊豫岡宏樹 乾 隆帝・赤松良久・中尾遼平 栗田喜久・鹿野雄一・鬼倉徳雄 鬼倉徳雄・グループメンバー全員 富重幹太・鬼倉徳雄・皆川朋子 皆川朋子・富重幹太・津上真太郎 大杉智美・中武洋佑・大井和之・福岡県朝倉県土・中島淳・林博徳・鬼倉徳雄
・桂川の生物多様性の回復を目指した産官学の協同 ・山地溪流河道の安定性に関する現地調査と移動床模型実験 ・巨瀬川における令和5年7月豪雨災害復旧に向けた環境配慮事項の検討 ・水生甲虫ヒメドロムシを指標とした自然災害と河川改修の影響評価 ・筑後川中流域における近世以降災害史 ・筑後川支流のフミン物質濃度の時系列変化及び土地利用との関係	佐藤辰郎・高田浩志 山崎庸平・林博徳・鹿野雄一 中島淳 寺村淳 田中亘
狩野川研究グループ / 代表 塚越 哲 ・流況変化に対する河川-海洋沿岸生態系の応答 - 狩野川水系における解明と生態系保全策 - ・駿河湾東部江浦湾海底堆積物(狩野川放水路出口)に生息するニッコウガイ科二枚貝類の還元環境への適応 ・狩野川放水路から海に流されたアユは生きられるのか？	塚越哲・加藤憲二・他 亀山隆・佐藤慎一・加藤憲二 松尾周平・伊藤武留・飯郷雅之・峰岸有紀・井ノ口蘭・日下部誠
総合研究グループ(汽水域チーム) / 代表 乾 隆帝 ・感潮河川潮間帯における生物の面的モニタリングのための技術革新研究 ・干潟の表層画像からハゼ科魚類の分布を判別できるのか？ ・干潟の表層画像から底生生物群集を判別できるのか？ ・UAV航空写真を用いたAI画像解析による干潟底質分類 ・干潟域におけるハゼ科魚類を対象とした環境DNA検出系の開発および有効性の検討	乾 隆帝 山本一輝・大中 臨・小山彰彦・赤松良久・乾 隆帝 小山彰彦・山本一輝・大中 臨・赤松良久・乾 隆帝 伊豫岡宏樹・石神和・藤永拓矢・大中臨・赤松良久・乾隆帝 中尾遼平・井藤大樹・小山彰彦・赤松良久・乾隆帝

参加申し込み

下記URLまたはQRコードにより、お申込み下さい。

●Zoom参加 (オンライン参加)

https://e-ve.event-form.jp/event/89000/26th_kasenseitai_Web

●会場参加

https://e-ve.event-form.jp/event/88829/26th_kasenseitai_kaijyou

※上記フォームでお申込できない場合は事務局宛にメールでお問い合わせ下さい。

Zoom参加



会場参加



河川生態学術研究会の詳細は

こちらをご覧ください。

「河川生態学術研究会パンフレット第20版」

https://www.rfc.or.jp/seitai/seitai_pamph_20.pdf

申込締切 11/18迄

お問い合わせ 河川生態学術研究会事務局(公益財団法人リバーフロント研究所内)担当:内藤(太)・渡邊(祐)

電話:03-6228-3861、メール:rfc-event@rfc.or.jp